

第 153 回北海道歯科技工学術研修会

講演タイトル

「どう考える、人工歯配列！」

抄録

日々、わたくしたち歯科技工士は数多くの義歯を製作している。現在ではメソッド（方法論）として広く認知されているものも多いが、おそらくどの方法を例にとっても、術者によって人工歯のサイズ選択や、配列位置と角度（どこに向かうのか）に差異が現れ、最終的に結果にも大きな影響を及ぼす場合がある。

「うまくいった」「うまくいかなかった」この原因はどこにあるのか。

生体には許容範囲があり、临床上の正解には当然幅があるとは考えるが、解剖学的、生理学的な分析を利用し、最終像を想定することは、ラボサイドにおいては临床上有効な手段だと考える。

今回、ラボサイドでもここまで想定できるという観点で、わたくしが行っている人工歯配列とその判断基準について、そのキーポイントをお話したい。

また時間が許せばではあるが、クリニカルサイドとラボサイドの情報交換について、皆さんの参考になるよう須田先生と意見交換を行いたい。